

many
young
Americans
will vote
in 2012
elections
for the
first time
in their
lives



若者は投票する！ 2012年米国選挙



米国国務省
第16巻 第11号
2012年8月

Coordinator, Dawn L. McCall;
Executive Editor, Nicholas S. Namba;
Director of Written Content, Michael
Jay Friedman; Editorial Director, Mary
T. Chunko; Managing Editor, Andrzej
Zwaniecki; Production Chief, Michelle
Farrell; Designers: Dori Walker,
Lauren Russell

米国国務省の国際情報プログラム局は、eJournal USAのロゴ名で電子ジャーナルを発行し、米国や国際社会が直面する主要な問題、ならびに米国の社会や価値観、考え方、さまざまな制度について検証しています。

最新号はまず英語で発行され、続いて電子版のフランス語、ポルトガル語、ロシア語、スペイン語版が発行されます。必要に応じてアラビア語、中国語、ペルシア語の翻訳版が発行される場合もあります。ジャーナルはそれぞれ、発行巻数と、号数別に目録に掲載されます。

ジャーナルの中で提示された意見は、必ずしも米国政府の見解や政策を反映するものではありません。米国国務省は、ジャーナルがリンクするインターネット・サイトの内容、およびこれらのサイトへの継続的な利用の可能性について、一切の責任を負いません。各サイトについての責任は、サイトの発行者のみに帰属するものとします。ジャーナルに掲載される記事や写真、イラストは、著作権についての明記がない限り、米国外での複製や翻訳を認めますが、明記があるものについては、ジャーナルに記載されている著作権保有者の許可を得なければなりません。

ジャーナルに関するご意見等は、最寄りの米国大使館・アメリカンセンターのレファレンス資料室、または下記の編集部までお寄せください。

Editor, eJournal USA
IIP/CD/WC
U.S. Department of State
2200 C Street, NW
Washington, DC 20522-0501 USA
E-mail: eJournalUSA@state.gov

編集・発行: 米国大使館レファレンス資料室
(2012年10月)
本号の日本語文書は参考のための仮翻訳であり、正文は英文です。

YOUTH VOTES! many young Americans will vote for the first or second time in the 2012 U.S. elections.

ミレニアルズが選挙を

揺り動かす!



© Andy Scott Chang/Demotix/Corbis

ミレニアル世代は 他世代とどこが違うのか?

- 教育水準が高く、結婚して子供を持つのが遅い。
- 厳しい経済状況に直面しながらも、将来に明るい見通しを持っている。
- 移民や異人種間の結婚に対する抵抗が少ない。
- 人種的・民族的にますます多様になり、圧倒的多数が多様性は米国にとって良いことだと考えている。
- 社会的問題、政府の役割、米国の国際関与について、より進歩的な意見を持っている。

『eJournal USA』本号では、「ミレニアルズ」と呼ばれる1990年代初頭から世紀の変わり目までに生まれた米国の若者たちが、米国の選挙民と政治の様相にもたらしている変化について紹介する。ミレニアル世代は前世代とどのように違うのだろうか? ミレニアル世代にとって、2012年11月の選挙では何が争点になるのだろうか? 彼らは米国の2大政党の一員となっていくのだろうか? そして彼らが各候補者とその主張を支持する理由は何なのだろうか?

これらの問いに対する答えは、民主党と共和党の若き活動家たちによるFacebook討論(2ページ)、選挙運動ボランティアのブログ(5ページ)、最新データに見るミレニアル世代の人物像(12ページ)の中にある。また米国連邦議会の最年少議員を描いた漫画(8ページ)を読めば、かつては政治家としてはマイナスだと見なされていた「若さ」が、政治的強みになり得ることがわかるだろう。

明らかなのは、米国の若者が、1930年代の大恐慌以来最も厳しい経済・雇用状況に直面しながらも、楽観的な展望を持ち、民主主義を信奉し続けているということである。

編集部

IN 2012

WHAT'S AT STAKE?

2012年選挙—何が争点か?

なぜわざわざ投票に行くのか?

本号では、大学生の年齢の民主党員と共和党員に米国の政党と2012年選挙戦について話し合ってもらった。ローガン・ブログ、ベンジャミン・ハワード、アディティ・ガイの3人による、Facebook チャットルームでの討論を紹介する。聞き手は『eJournal USA』副編集長のアンジェイ・ズワニエツキ。

Q: あなたの支持政党と対立政党の違いを明確にする、最も重要な理念または原則は何ですか?

ローガン: 民主党は米国の多様性を体現していると思います。民主党は保守主義よりも進歩を重んじ、誰もが成功する機会を法の下で平等に与えられるべきであると信じ、強固な社会的セーフティーネットによる弱者の保護を支持しています。さらに民主党は、地球規模の気候変動への解決策を模索し、原則に基づきながらも実利的な外交政策を取っています。

アディティ: 私にとっては、共和党の個人に対する人間主義的な考え方です。つまり個人は自分で自らの将来を決定し、実力で成功を収めることができるという信念、そしてそのために政府による不必要な干渉や介入は不要という信念です。この考え方は、ローガンが言及した「機会」と同じような意味を持っています。ただそれを共和党の政策綱領では、より幅広い意味でとらえているのです。

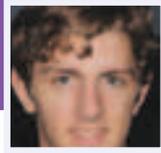
ベンジャミン: 民主党も「機会」を重要だと考えています。だから私たちは、教育、医療保険、金融規制、環境規制を支持しているのです。これらは、恵まれない環境にある人々も含め、すべての人に成功の機会を与えてくれます。権利を行使することは、その手段を持っていなければ容易ではありません。だからこそ私たち民主党は、条件を公平にしたいと考えているのです。

アディティ: 今、あなたが挙げたことを支持しているのは民主党だけではないと思います。共和党もまた、これらの問題に深い関心を寄せています。それは規模と優先順位の問題に過ぎません。財源には限りがあるという現実を無視することはできません。1つの問題に過剰に財源を割り当てれば、当然のことながら、残りのすべての問題に割り当てられるべき財源は減少します。こうした、一方を追求すれば他方が犠牲になるという関係、例えば教育と福祉、あるいは2つの世代間の関係といった問題については、それを明確にして妥協点を見出すにしても、財源を過剰に投入することの弊害は明らかです。



ローガン・V・ブログ

ダートマス大学の学生で、同大学の民主党員組織 (Dartmouth College Democrats) のアウトリーチ・ディレクター



ベンジャミン・ハワード

ニューヨーク大学の学生で、同大学におけるオバマ大統領の選挙運動ボランティア



アディティ・ガイ

ハーバード大学の学生で、同大学の共和党員組織 (Harvard College Republicans) の副会長

Q: あなた方の世代は、米国の経済が厳しい状況に置かれているときに成人の仲間入りをします。2012年の選挙は、状況を変えることができますか？

アディティ：選挙それ自体が状況を変えることはできませんが、選挙によって選ばれた人たちと、彼らが打ち出す政策によって状況を変えることができます。要するに答えは「イエス」です。私は無知ではありませんし、今日の経済停滞がすべて現職大統領のせいだと思っているわけではありません。しかし大統領の打ち出した政策は事態の悪化を招いたと思っています。政策が転換されれば、多くのことが好転すると思います。

ベンジャミン：大統領を含め民主党は、経済の回復、雇用機会の改善、社会的セーフティーネットの維持の可能性を高める対策を講じてきました。景気の動向は政府の政策だけで決まるものではありませんが、正しい政党に投票することによって大きな影響を与えることができます。

アディティ：選挙とは、国民の士気の問題でもあります。選挙によって心理的变化が引き起こされ、それが結果的に経済や社会福祉に本物の変化をもたらすのです。オバマ大統領は、自らの掲げる政策課題と現実の折り合いをつけることができずにいます。「変革」をもたらすという約束も果たしていません。そのために国民の士気に悪影響をもたらしたのです。今こそ、国民の士気を高め、国際社会における米国の経済的・政治的地位を向上させることのできる、新しい人物の出番なのです。

ローガン：2012年の大統領選挙は、本当に重大な意味を持ちます。オバマ大統領の医療制度改革は、何百万人も米国民が新たに医療保険に加入することを可能にしますが、共和党はこの改革法を撤廃に追い込もうとしています。多くの勤勉な米国民を守るための新たな金融規制法も、危機にさらされています。さらに、共和党員の多くは気候変動を「信じて」いないため、共和党が選挙で勝利すれば、重要な環境問題の解決に向けた取り組みは行われなんでしょう。最後に、民主党は企業の発展を促すインフラ整備計画のための資金の増額を支持しています。

ミレニアルズは言う：

受け取って投票しようという気持ちになるのは…

Facebookのメッセージ

65%

携帯メール

58%

Eメール

38%

電話

13%

出典：ジェネレーション・オポチュニティー (Generation Opportunity) が2012年に発表したレポート

友人とのコミュニケーション手段として好きなのは…

49%
直接会う

33%
携帯メール

4%
電話

7%
ウェブサイト

8%
その他

出典：コモン・センス・メディア (Common Sense Media) が発表したレポート [Social Media, Social Life]



ローガン



ベンジャミン



アディティ

Q: なぜ米国の若者は、共和党、民主党のいずれかに所属する必要があるのでしょうか？ 自分の考えを最も良く代弁してくれる候補者に投票するだけではいけないのでしょうか？

アディティ：政党に所属しなければならないわけではありません。ある政党へ所属するのが適切なのは、個人が自ら考えた見解が、特定の政党の見解と一致したときだけだと思います。そうでなければ、政党に所属してその考え方を取り入れるなんて、率直に言って全くばかっています。それは私が先ほどお話した個人主義の精神にも反します。私が共和党員なのは個人事業と小さな政府を支持しているからです。共和党員だから個人事業と小さな政府を支持しているわけではありません。

ローガン：政党への所属を検討するには、3つの主要な理由があります。第1に、多くの州では、民主党の予備選挙で投票するためには民主党員であることが必要だということです。共和党の予備選挙の場合は共和党員でなければなりません。第2に、政党に所属することで党綱領(主要課題に対する党の姿勢)に影響を及ぼすことができます。政党に所属すれば選挙運動が容易になりますし、自分の意見を聞いてもらいやすくなります。最後に、民主党の主要方針に賛成する人の多くは、民主党が掲げるその他の方針にも賛成することが多いのです。

ベンジャミン：繰り返しになりますが、政党に所属して、党の政策に影響を与えることは、政治的に自分を表現する素晴らしい方法です。

Q: 最後に伝えたいことはありますか？

ベンジャミン：政治的活動に積極的に参加すること、そして政府のあり方に影響を与えようと試みることは、市民としての重要な要素です。民主党は長年にわたり、若者の権利のために戦ってきました。そして若者がリーダーとなって、私たちの生活を形づくる政策に影響を与えられる場所であり続けています。

アディティ：「20歳までに民主党員にならない人は思いやりに欠ける。40歳までに共和党員にならない人は知性に欠ける」と俗に言われます。しかし特に今日の状況では、民主党の掲げる心温まる、大げさな「変革」の約束だけでは、16兆ドル近い財政赤字や8.2%の失業率を解決することはできません。私はローガンやベンジャミンが先に言及した諸問題について反対してはなりません。ただ彼らの「約束」に具体的な活動の裏打ちがなく、単に口先だけのものであるならば、諸問題すべてに同時に取り組むことなどできないと思うのです。

ローガン：民主党の基本理念は「責任」です。私たちは隣人、国、環境、そして世界のことを考えなければなりません。進歩に必要なのは、国民共通の福祉のために広範な責任を果たし続けることです。そして民主党の政策理念こそが私たちをその目標に向かわせるのです。

CAMPAIGN VOLUNTEER BLOGS

選挙運動ボランティアのブログ

有権者の考えを洞察する

私は 2007 年からロン・ポール候補を支援しています。2012 年のニューハンプシャー州予備選挙で、ポール候補の選挙運動に参加したのは素晴らしい経験でした。

私は自由に生きてと思っています。自分の子供たちにも、その子供たちにも自由に生きてほしいと思っています。ロン・ポール候補が言うように、すべての世代には自由に生きる権利があるのです。自由と公正と小さな政府を推進する運動に参加することは、米国をより自由な国にしたいと願う運動に参加することなのです。

選挙運動では大変な思いをしました。ニューハンプシャー州の予備選挙に向けての準備期間中、私や他のボランティアたちは、毎日夜遅くまで長時間働き、何千本も電話をかけました。でも、それは非常に価値のあることでした。見ず知らずの人と電話で話し、ロン・ポール候補に投票するよう説得するなんて、これ以上に満足感の得られる仕事はありません。

人々と話をするということはとても個人的なことであり、有権者の考えや政治プロセス自体についても、深く理解することができました。私が学んだ最も重要なことは、私が何年もかけて大統領候補として誰を支持するかを決めたのに対し、ほとんどの人は最後の最後まで誰を支持するか決めていないということです。候補者をまだ決めていない多くの人に、ロン・ポール候補を選ぶよう説得するのは素晴らしい気分でした。



コーディー・セグラベス (左)
ゲティスバーグ大学でポール候補支持組織
(Youth for Paul) の副委員長を務める

勝利へ向けて一歩ずつ前進

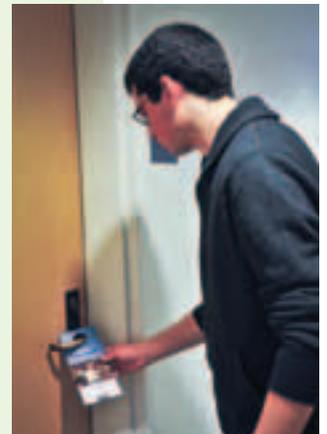
私はオバマ大統領の再選を目指して選挙運動をしています。米国のあり方について、大統領とビジョンを共有するからです。

私は、米国に暮らすすべての人には医療を受ける基本的権利があると考えます。また米国はクリーンで環境に優しい経済に移行するべきであり、政府は恵まれない人々を助けるための役割を果たさなければならないと思います。

私は大学のキャンパス・オーガナイザーとして、他の学生や選挙運動スタッフ、そしてより広い地域の人々と協力しながら、地域を元気づけ、オバマ大統領への投票を呼び掛けています。

私たちは戸別訪問、情報の提供、イベントの開催、友人や地域の人々との対話を行っています。また私たちとは異なる政治的意見を持つ人々との討論会を主催し、この選挙、そして有権者の投票が、私たちの共有する民主主義の成功に不可欠であるということを皆に理解してもらえるように努めています。私の支持する候補者を他の有権者にも支持してもらえるよう説得できたときほど気分のいいことはありません。1対1の対話を積み重ねるたびに、選挙戦は一歩ずつ勝利に近づいているのです。

私の経験から言えば、選挙の勝利を決定付けるのはお金ではなく、候補者自身や候補者が支持する行動でもありません。選挙の勝利を決定付けるのは地域社会の人々に関わるボランティアの奮闘です。選挙で問われている事はたいへん重要であり、家でじっとして無関心でいるわけにはいきません。米国の成功は、私の支持する候補者にかかっています。そして私の支持する候補者の成功は、私のようなボランティアにかかっているのです。



ローガン・V・ブログ
ダートマス大学の民主党員組織
(Dartmouth College Democrats) で
アウトリーチ・ディレクターを務める



アディティ・ガイ
ハーバード大学の共和党员組織
(Harvard College Republicans) で副会長を務める

どんなときも価値のある経験

選挙運動とは、実際のところ、目的を持って人と付き合うことです。

私はロムニー候補の選挙運動の学生ボランティアとして、電話や戸別訪問による支持の呼び掛け、集会を開くための学生の支援体制づくりなど、さまざまな活動を体験しています。これらの活動を通じて、米国の有権者と関わりを持つ機会を得ることができました。同時に、何が国民にとって本当に重要な問題なのかを認識し、私の支持する候補者の姿勢が国民感情にどのように応えているかを評価することができました。

さらに重要なことに、選挙運動で人々と交流していると、米国や、米国が属する急速に相互依存を強める国際システムが直面する多くの差し迫った問題について、自分はどんな立場を取っているか、自分と同じ立場を取っているのは誰か、また、なぜ自分はいまその立場を取っているのかを考えずにはいられなくなります。まとめて言えば、こうした人々との対話は、私の政治的知識を深め、政治に対する情熱を強め、政治への好奇心を刺激してくれます。ニューハンプシャーで土曜日の朝、雪の中を歩いて有権者の家を回ることさえ、例えようもなく楽しく感じるほどです。

自分の政治的キャリアを築く

私はロムニー候補の選挙運動に情熱を注いでいます。それはロムニー氏が他の誰よりも米国を良くすることができるからに他なりません。

ロムニー氏は、財政面の専門知識、公共部門での行政経験（州知事）、民間部門での役員経験（非公開投資会社ベイン・キャピタルの最高経営責任者）を持ち、さらに誠実さと思いやりを備えた、大統領候補として申し分のない人物です。

選挙運動は、私にとって第2の天性のようなものですが、特に有権者と個人的に関わる活動が好きです。有権者にとって何が本当に重要か知ることができるからです。有権者の声は、米国民がさまざまな選挙運動にどのような反応を示すかを判断するのに役立ちます。選挙運動中に私が耳にする多くの意見は、ロムニー氏の意見と合致しています。

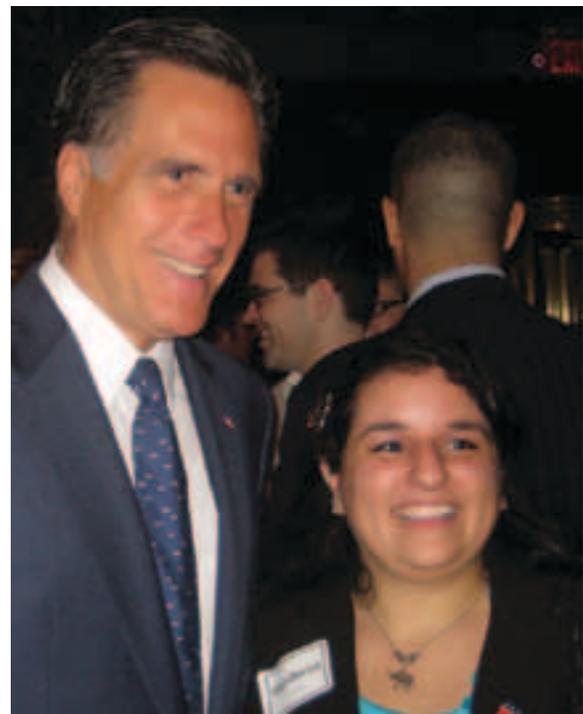
有権者の意見は、私の政治的将来を築くにも役立っていると思います。というのも、私の夢は米国の上院議員になること、あるいは少なくとも政府の職に就き、政治に関わっていくことだからです。有権者と交流し、その声に耳を傾ける機会が増えれば、自分自身のキャリアの中で、有権者のためにできることも増えていくと思います。

私がこれまでにボランティアとして携わってきたすべての選挙運動の中で、ロムニー氏の選挙運動が一番学ぶことが多く、個人的に最も充実しています。大統領選の選挙運動の進め方について、役割分担の仕方など、たいへん多くのことを学びました。

昨年12月、私はロムニー氏の息子ジョッシュに会って握手をしました。「おやまあ、こんなに手が冷たくなって!」と彼は驚きの声を上げました。私は恐縮してしまいました。ロムニー一家が心優しい人々であることは有名です。しかしその時まで、彼らがどれほど素晴らしい人々であるか、私は気付かずにいたのです! この経験を通じて私は、ミット・ロムニーが大統領になるべきだという信念を一層強くしました!

ジョシヤナ・ワイスマン

ジョージ・ワシントン大学のロムニー支持学生組織
(Students for Mitt Romney) のメンバー





マイク・ブレイス
ニューヨーク大学のオバマ支持学生組織 (Students for Barack Obama) のメディア・コーディネーター

**選挙運動は、
変革はいつも
手の届くところにあると
私に教えてくれました。**

「変革」は手の届くところにある

ニューヨーク大学 (NYU) のオバマ支持学生組織 (Students for Barack Obama) に参加して、情熱にあふれる若きボランティアと共に活動する、素晴らしい機会を得ることができました。

私にとって、何ととっても最も有意義だったのは、さまざまな人々と、彼らにとって何が最も重要かを話し合う機会が得られたことです。ペンシルベニア州チェスターの住民、マサチューセッツ州ボストンの選挙運動支援者、そしてNYUの学生たちから、彼らに関心を持っている事柄について話を聞き、こうして個人レベルで人々と交流できることが素晴らしい機会であることに気がきました。

また人々の声を聞いてみると、普通の人々の意見に耳を傾けることが、米国が直面している問題について理解する最良の方法だと分かりました。

この選挙運動は、変革はいつも手の届くところにあると私に教えてくれました。NYUの学生の有権者登録を進めていたとき、米国の未来に対する期待が行動に移され、力に変えられていくのを目の当たりにしました。それはNYUのオバマ支持学生組織に多くの積極的なボランティアが集まって、学生の有権者登録を手伝ってくれたことにも表れています。

このような経験を通じて、レベルや規模に関係なく、政治に関わりを持つことは本当に重要なことだと学びました。大統領を選ぶ時が来たら、自分の役目をきちんと果たしたことを私はうれしく思うでしょう。

**ミレニアルズによれば、
米国が直面する最も重要な課題は：**

- 1. 雇用の創出**
- 2. 連邦政府財政赤字の削減**
- 3. 医療へのアクセスの保証**
- 4. 減税**

出典：「政治と公共サービスに対する米国の若者の姿勢に関する調査 (Survey of Young Americans' Attitudes Toward Politics and Public Service)」、ハーバード大学政治研究所、2012年4月

SCHOCK

TO THE SYSTEM

アーロン・ショック — 体制への「ショック」

画: クリス・ピアーズ



アーロン・ショックは、2009年からイリノイ州第18選挙区選出の米国下院議員を務めている。共和党所属で、現在31歳。現職では最年少の下院議員で、米国連邦議会初の1980年代生まれの議員である。



ショックは投票用紙に名前が記載されない候補者として、草の根選挙運動を展開する。



ショックは教育委員に当選する。2年後、ショックが大学を早期卒業するとき、委員会は投票を行う。

ショックには財政の専門知識があり、地域全体に利益をもたらした。彼を委員長に推薦します

彼は19歳、ビオリアの歴史上最も若い教育委員長ということになる

歴史を塗り替えましょう



ショックはビオリアの教育委員会代表団と共に、イリノイ州スプリングフィールドの州議会を訪れる。

州議会のリッカ・スローン議員には、面会する時間がないと言われたよ。まただ!

仕方ないですね

いや、そんなことはないさ



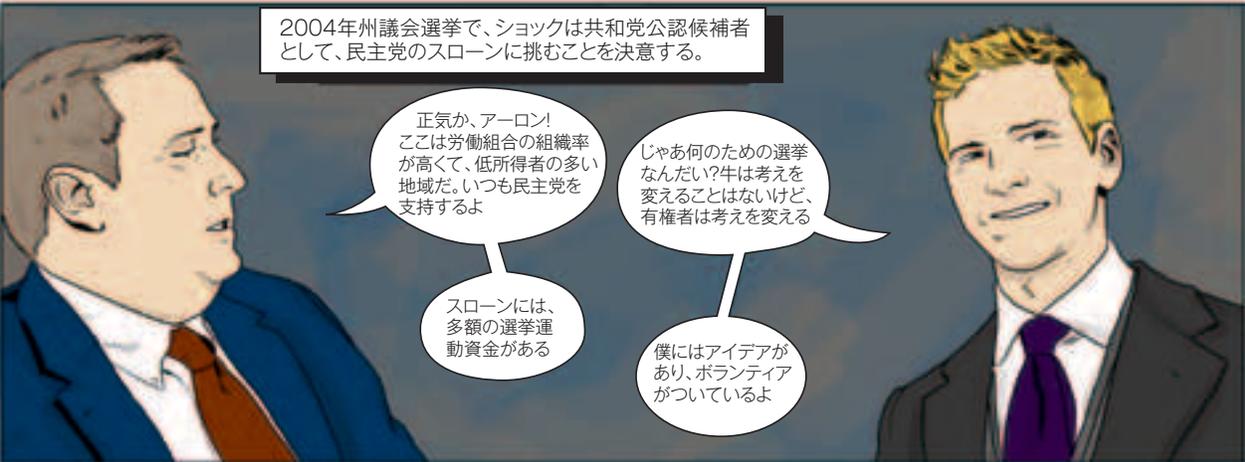
2004年州議会選挙で、ショックは共和党公認候補者として、民主党のスローンに挑むことを決意する。

正気か、アーロン! ここは労働組合の組織率が高く、低所得者の多い地域だ。いつも民主党を支持するよ

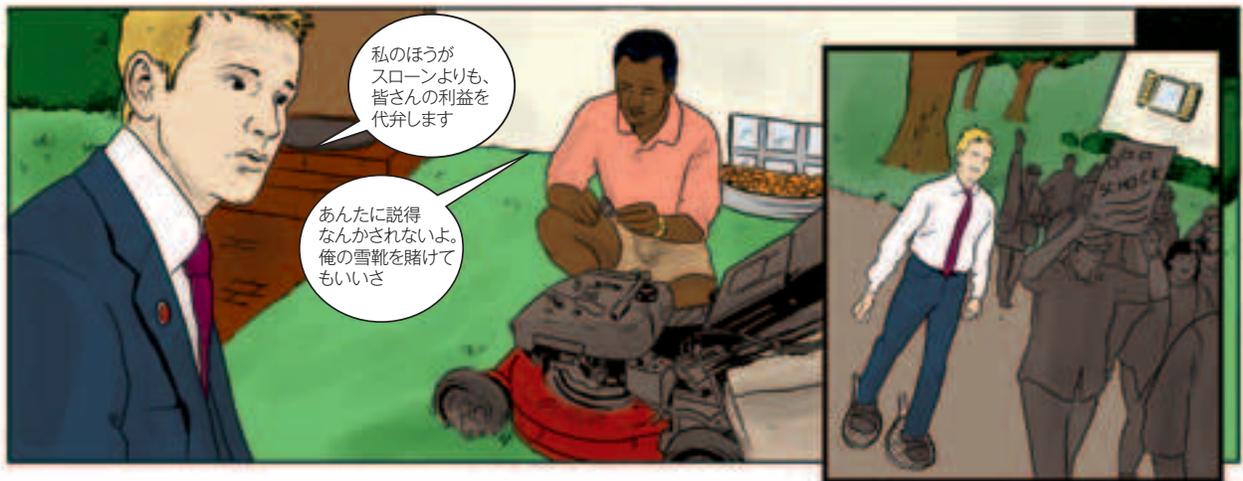
じゃあ何のための選挙なんだい?牛は考えを変えることはないけど、有権者は考えを変える

スローンには、多額の選挙運動資金がある

僕にはアイデアがあり、ボランティアがついているよ



SCHOCK TO THE SYSTEM CONTINUED

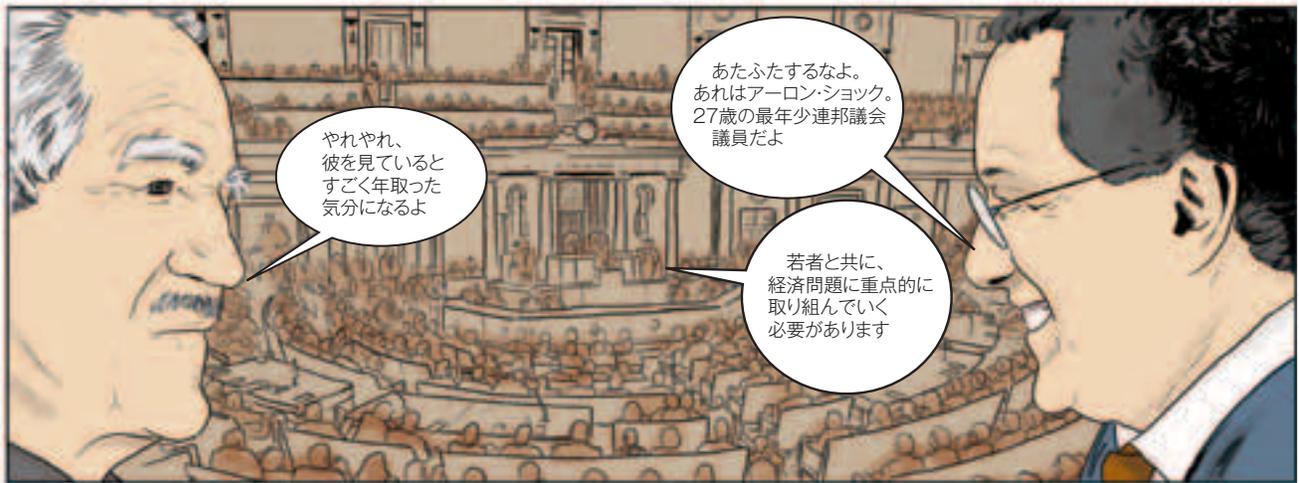


2008年の一般選挙で、ショックは元テレビニュースレポーターのクリーン・キャラハンの対立候補として戦う。



ショックには、実績と企業からの多額の選挙運動資金がある

キャラハンには、多くのボランティアと労働組合の支援があるわ



やれやれ、彼を見ているとすぐ年取った気分になるよ

あたふたするなよ。あれはアロン・ショック。27歳の最年少連邦会議員だよ

若者と共に、経済問題に重点的に取り組んでいく必要があります



いいえ、大統領選に出馬する予定はありません



今のところはね…

MILLENNIALS

データで見るミレニアル世代

FACTS

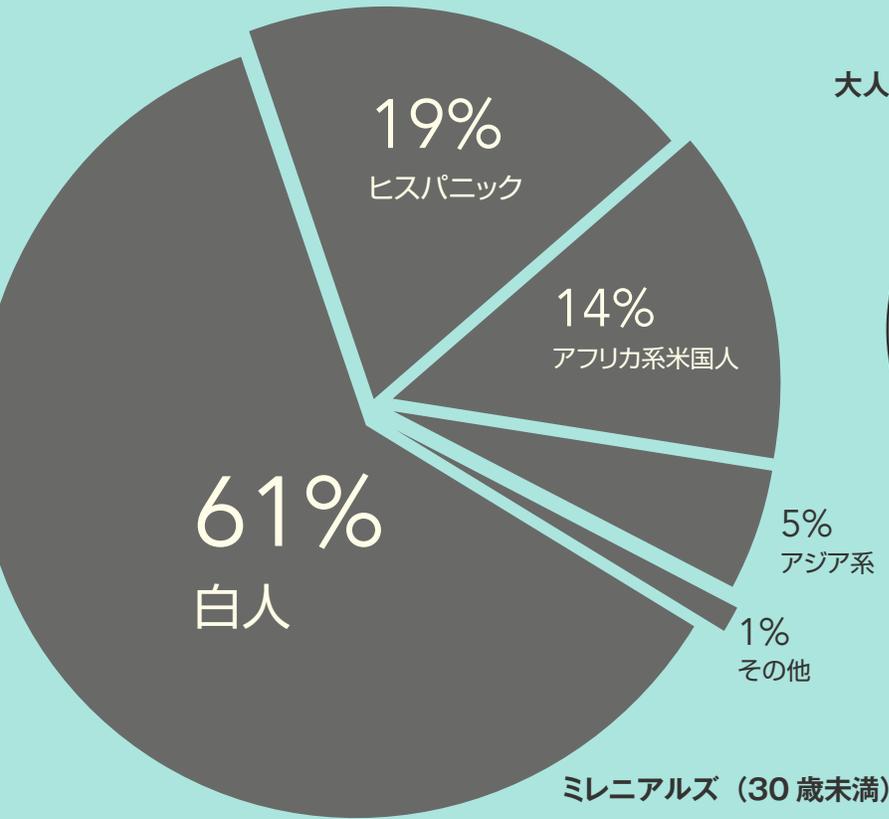
1980年代前半から1990年代後半に生まれた米国人には、さまざまな呼び方があるが、「ミレニアル世代」と「ミレニアルズ」が定着しそうである。

しかし呼び方はどうであれ、18歳から29歳までの若者は、彼らの両親や祖父母の世代とは異なる。

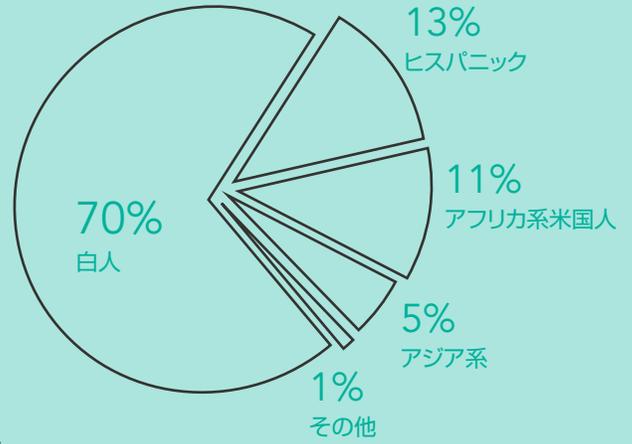
GENERIC BOOMERS
GENERATION

「るつぽ」の新たな構成

米国における各人種集団の割合



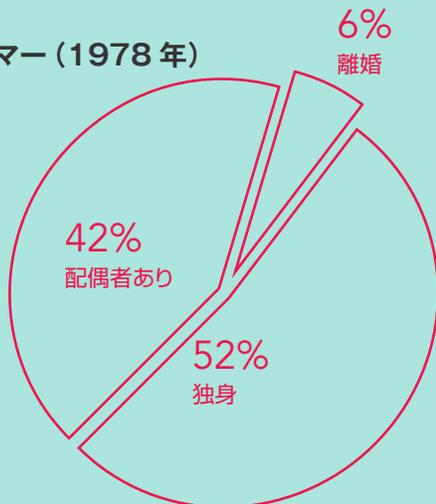
大人 (30歳以上)



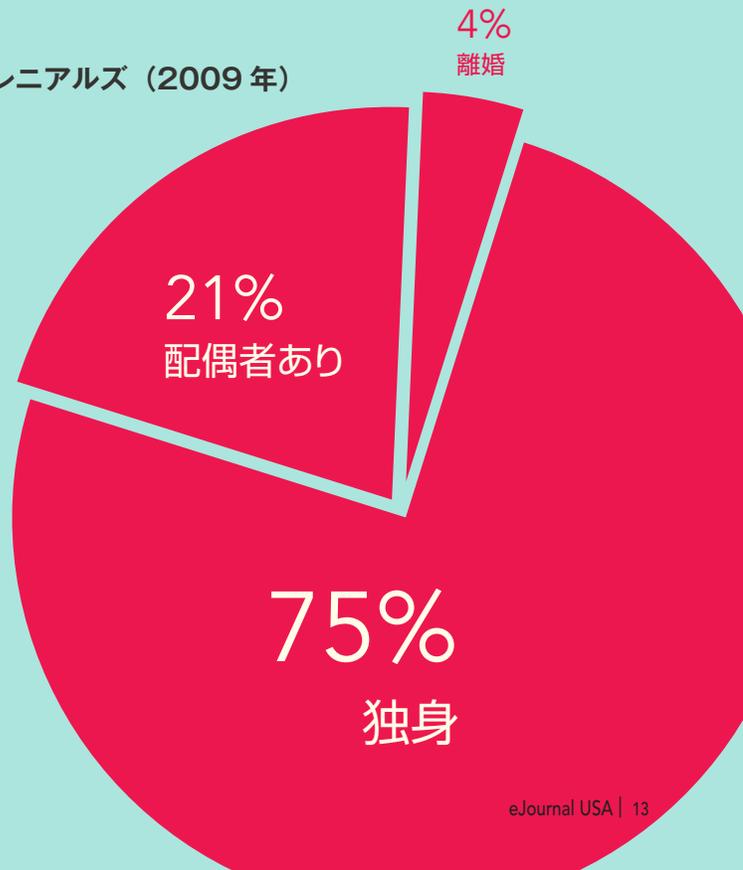
家庭生活

ミレニアルズとベビーブーマー。ベビーブーマーとは、1946年から1964年までの「ベビーブーム」時代に生まれた人たち。

ベビーブーマー (1978年)

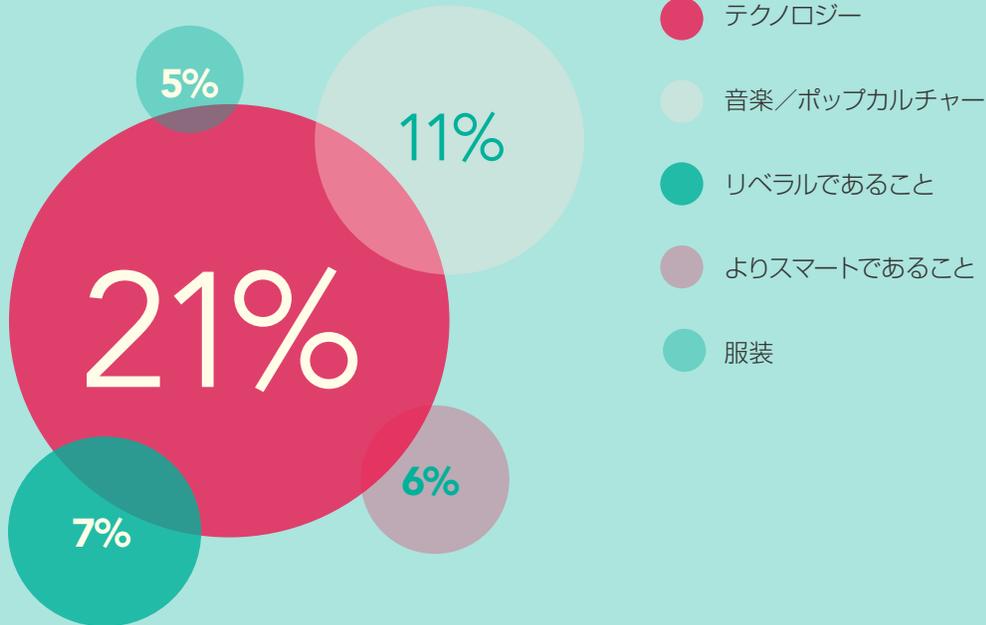


ミレニアルズ (2009年)



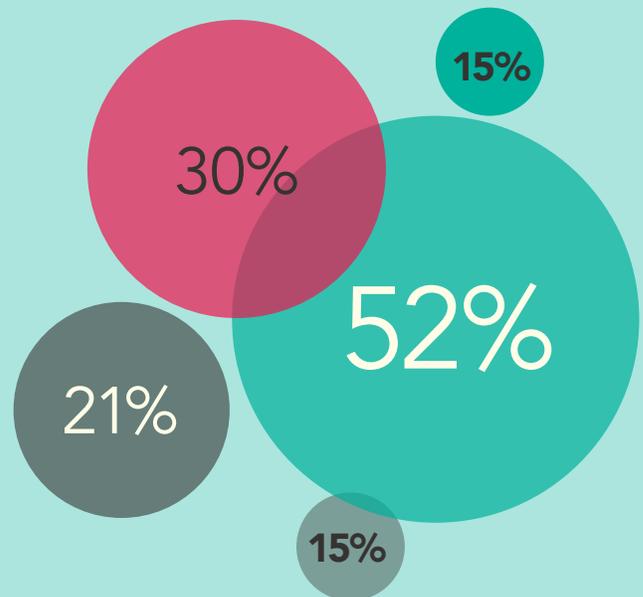
ミレニアルズ自身の声

「何があなたの世代に独自性を与えていますか？」との問いに、ミレニアルズの答えは：



「人生で最も大切なことは何ですか？」との問いに、ミレニアルズの答えは：

- 良い親になること ●
- 幸せな結婚生活をする事 ●
- 他者を助けること ●
- 信仰を守ること ●
- お金を持っていること ●



調査によれば、16歳から24歳までの若者の

54%

が事業を始めたいと思っているか、またはすでに始めている。

出典：ビュー・リサーチ・センターのレポート：『Millennials: A Portrait of Generation Next』、2010年

デジタル・コミュニケーション

最低1日1回は次の
コミュニケーション
手段を利用する
ミレニアルズの割合

携帯メール
68%

ソーシャル・
ネットワーキング
51%

Eメール
30%

インスタントメッセージ
19%

ビデオチャット **8%**

Photos © AP Images; third image from bottom, Robert Nicksberg/Getty Images



ON THE ISSUES

OBAMA

重要課題についての考え方

オバマ大統領は 2012 年大統領選挙の民主党候補である。



© AP Images

米国の価値観について

私たちは、民族的に、あるいは1つの宗教によって結ばれているわけではありません。私たちが結びつけているのは、誰にでもチャンスがあるという考え方です。自分の責任を果たしさえすれば、誰にでも成功するチャンスがあるのです。誰でも中間層、あるいはそれ以上になれるのです。そして誰でも会社を興すことができ、突然、世界を1つにする手助けすることもできるのです。これがこの国の素晴らしいところ です。(中略)

そのためには、私たちの信じる個人主義、自由、創造性、独自性に責任を負わなければなりません。しかし同時に、私たちはお互い同士に対しても責任を負うこと求められます。私や皆さんが今ここにいられるのは、誰かが、どこかで私たちの将来のために投資してくれたからです。私たちは次の世代のために同じ義務を果たさなくてはなりません。前の世代が私たちの世話をしてくれたように、私たちが後の世代の世話をしなければならぬのです。

2011年7月6日 ツイッター・タウンホール
(対話集会)

イノベーションについて

イノベーションは常に、個人の科学者と起業家によって推進されてきました。(中略)しかしイノベーションが盛んになったのは、私たちが1つの国家として、個人の起業家、発明家、科学者の成功に投資してきたからでもあります。

この国では、新しいアイデアを思いついた瞬間から、世界屈指の研究所や大学で、そのアイデアを探究することができます。研究助成金を受けてアイデアを発展させることができます。特許によってアイデアを守ることができます。融資を受けて起業し、アイデアを市場に出すことができま



© AP Images

す。素晴らしいアイデアを一貫して支える仕組みがあり、私たちは国家としてその仕組みに常に投資してきたのです。このようにして私たち米国国民は、数々のアイデアを、研究の初期段階から、民間部門に事業として引き継ぐ段階にまで発展させてきました。こうして投資と基礎研究が、コンピューターチップやGPSなど開発につながり、何百万もの良い仕事を生み出してきたのです。

2011年2月3日 ペンシルベニア州立大学での発言

宇宙探査について

私たちは依然として、宇宙探査の分野で世界をリードしています。(中略)スペースシャトル計画は、低軌道実験、国際宇宙ステーション、貨物輸送など、いくつかの素晴らしい成果を収めました。これらの偉業を私たちは誇りに思っています。しかし私たちに今必要なのは、次なる技術的躍進です。(中略)

現在、米航空宇宙局(NASA)は、そのミッションの見直しを図っています。そして私たちは、火星への有人着陸を最終目標と決めました。まずは足掛かりとして小惑星への着陸が目標となるでしょう。実際にどの小惑星かということは、まだ特定されてはいませんが。しかし大切なことは、境界線を広げる取り組みを始めようということです。同じことを何度も繰り返すのではなく、次の目標について考え、まだ成し遂げていないことに挑戦していきましょう。

2011年7月6日 ツイッター・タウンホール(対話集会)

私たちが結びつけているのは、誰にでもチャンスがあるという考え方です



© Chris Fitzgerald/Candidate Photos / The Image Works

ON THE ISSUES

ROMNEY

重要課題についての考え方

ロムニー前マサチューセッツ州知事は、2012年大統領選挙の共和党候補である。



© AP Images



米国の価値観について

私たちが世界の歴史上最も強力な国にした米国の文化とは、そもそも何なのでしょう？ それは勤勉と教育だと私たちは信じています。私たちは機会を大切にしています。私たちのほとんどは、機会を求めてやって来た移民とその子孫です。機会が私たちのDNAに組み込まれているのです。米国人は神を愛しています。そして信仰を持たない人というのは大抵、身の丈以上のものを信じます。いかなれば目的に駆り立てられた人生です。私たちは米国人として、家族のため、自由のため、国のためなら、持っているもののすべて、生命でさえも犠牲にします。こうした自由な米国民の価値観と信念が、この国の強みであり、今後ともそうであり続けるのです。

2008年2月7日 ワシントンで開催された保守政治活動協議会 (CPAC) での演説

政府ではなく国民こそが、米国の強さの源です。米国が将来にわたって強さを維持していく上で、家庭以上に重要な場所はありません。家庭内で成し遂げられる仕事が、米国で成し遂げられてきた仕事の中で最も重要なのです。ですから米国を強固な国にしたいと願うなら、米国の家庭を強固にしていく必要があります。

2007年2月22日 サウスカロライナ州スパータンバーグでの選挙演説

イノベーションについて

大学や研究所での基礎科学研究に対する政府の財政支援は、ここ数年減少しています。しかし、こうした財政支援は増額する必要があり、特に重要なのは工学と物理科学です。エネルギー、材料科学、ナノテクノロジー、輸送の分野の研究は、米国の経済と競争力のために不可欠です。そうは言っても、政府が優れたアイデアや技術を選別して、その開発と商業化のために投資するなどということはするべきではありません。

市場の現実こそが、成長と持続の可能性を持つものとそうでないものを選別するのです。起業家、エンジェル投資家、ベンチャー投資家が担うべき役割を政府が肩代わりして、自由市場の厳しいテストを避けて通らせるというのは、非常に愚かな考えです。

2010年3月2日出版のミット・ロムニーの著書『No Apology』より



© Chris Fitzgerald/Candidate Photos / The Image Works

宇宙探査について

宇宙と物理の分野で一流の大学教授や、業界のトップレベルの人材を招聘し、現在行われている宇宙探査の商業利用を実現していきたいと考えています。トップレベルの軍事専門家にも宇宙事業に参加してもらいたいと考えています。各分野の人材と協力し、さまざまな可能性やコストについて検討したいと思います。米国の産業界には、防衛ネットワークやその他の分野と連携し、この国の宇宙開発事業が繁栄、成長し続けるための計画の策定を期待しています。私は月に植民地を作ることを求めてはいません。それよりは米国内の住宅の再建を優先したいと思います。

2012年1月26日 フロリダ州ジャクソンビルでのCNN主催の共和党予備選挙討論

政府は優れたアイデアや技術を選別しようとするべきではありません

米国選挙 用語ガイド

党員集会 (Caucus)

党員集会とは、特定の政党に登録している党員が、市、町、郡などの地域ごとに集まり、候補者への支持を表明する集会である。党大会とは異なり、複数の場所で同時に、多数の集会が開催される。

政党は、州議会および連邦議会選挙に向けての指名候補を、州の党員集会全体の推薦によって決定する。

民主党と共和党の両党とも、独自の規則によって州の党員集会を実施しており、その規則は州ごとに異なる。

選挙人団 (Electoral College)

選挙人団制度は 1787 年、大統領を選出する方法として、連邦議会による選出と国民による直接選挙の折衷案として採用された。

選挙人の数は州により異なる。各州に割り当てられる選挙人は、その州の下院議員の数—10 年ごとに行われる国勢調査に基づいて定められる—と、上院議員の数 (2 人) を合わせた数となる。2012 年の場合、人口の多いカリフォルニア州の選挙人は 55 人であるが、アラスカ州やデラウェア州など人口の少ない州では 3 人である。選挙人の選び方も州ごとに異なる。一般的には、州の政党指導者が州の党員集会で指名するか、州の党中央委員会で選出する。

米国民が大統領選挙に投票した後、50 州およびワシントン DC の選挙人は、各州の州都に集まり、次期大統領を選ぶ。過半数となる 270 票が、大統領および副大統領の選出には必要とされる。投票は 12 月に行われるが、各州の選挙人はほぼ例外なく 11 月の投票結果に従って投票する。

一般選挙 (General Election)

一般選挙で有権者は、連邦政府、州政府、地方政府の公職の候補者に投票する。これらの候補者には、政党の指名候補と無所属候補がいる。無所属とは、民主党や共和党のような主要政党に所属していないということである。有権者は、支持する候補者の名前を記入することによって投票することもできる。

一般選挙は各州が実施するが、実施日は連邦法によって 11 月の第 1 月曜日の次の火曜日と決められている。

立法案、住民投票、債券の発行 (公共事業のための借金) などの施策、その他の政府の措置についても、投票にかけられる場合がある。投票にかけられることのできる事項については、各州がそれぞれ規則を定めている。

政治活動委員会 (Political Action Committee)

政治活動委員会 (PAC) は、特定の政党候補者の選挙運動または政策を支援するための資金を集める団体である。また反対する候補者や政策に対抗するための資金を集める場合もある。

PAC は、企業、労働組合、その他の特別利益団体などによって設立される。これらの団体は候補者や政党からの正式な支持は受けていない。企業や労働組合などが、自らが設立した PAC に献金することは禁じられているが、従業員や組合員などの個人は献金することができる。

予備選挙 (Primary Election)

予備選挙は、政党が一般選挙に向けて候補者を選ぶ場である。予備選挙の結果は、登録有権者が地域の投票所で行う投票によって決まる。

所属 (Affiliation)

人や組織とつながりや交流を持つ行為

候補者名簿 (Ballot)

立候補者の正式な名簿

候補者 (Candidate)

公職を目指す人、またはその候補に指名された人

代議員 (Delegate)

代表者として行動する権限を与えられている人

大統領候補に関してのみ、有権者は代議員に投票し、その代議員が全国党大会で候補者に投票する。その他のすべての予備選挙では、有権者は直接候補者に投票する。

予備選挙には閉鎖型予備選挙と呼ばれるものがあり、この場合投票できるのは、政党に所属する有権者だけに限られる。つまり、共和党大統領候補を決める予備選挙で投票できるのは、登録された共和党員に限られるということである。一方、開放型予備選挙の場合は、政党への所属の有無に関わらず、すべての登録有権者が投票できる。

予備選挙は、一般選挙と同様、各州によって実施される。ただ、一般選挙とは異なり、予備選挙の投票日は各州が決定する。

書き込み候補 (Write-in Candidate)

書き込み候補の場合は、名前が投票用紙に記載されていない。有権者は、投票用紙の所定の個所に名前を記入することで、特定の候補者に投票することができる。

米国選挙について知りたかったことの(ほぼ)すべて



連邦政府の公職者はどのように選出されるのか？

答えは米国議会図書館のウェブサイト (<http://goo.gl/ALXQw>) を見てみよう。さらに米国国務省国際情報プログラム局のウェブサイトでも、次のような質問に答えている。



米国にはどんな政党があるのか？

<http://goo.gl/dBqrz>



米国の有権者はどのように変わりつつあるのか？

<http://goo.gl/OXyhY>



予備選挙とは何か？

<http://goo.gl/sSYfE>



党大会とは何か？

<http://goo.gl/qofbP>



米国で初めて公職に選ばれた女性は誰か？

<http://goo.gl/Kvlz7>



選挙人団 (Electoral College) は学校ではない。とすれば何なのか？

<http://goo.gl/z83ta>

米国大使館 / アメリカンセンター レファレンス資料室

札幌アメリカンセンター・レファレンス資料室
〒064-0821 札幌市中央区北1条西28丁目 米国総領事館内
Tel: 011-641-3444
Fax: 011-641-0911

関西アメリカンセンター・レファレンス資料室
〒530-8543 大阪市北区西天満2-11-5 米国総領事館ビル6階
Tel: 06-6315-5970
Fax: 06-6315-5980

米国大使館レファレンス資料室
〒107-8420 東京都港区赤坂1-10-5
Tel: 03-3224-5292 (レファレンスサービス)
Tel: 03-3224-5293 (来館予約)
Fax: 03-3505-4769

福岡アメリカン・センター・レファレンス資料室
〒810-0001 福岡市中央区天神2-2-67 ソラリア・パークサイドビル8階
Tel: 092-733-0246
Fax: 092-716-6152

米国大使館のウェブサイト

米国大使館 <http://japanese.japan.usembassy.gov>

米国大使館携帯サイト <http://usembassy.jp>

米国紙幣の顔

ジョージ・ワシントン

トーマス・ジェファソン

エイブラハム・リンカーン

アンドリュー・ジャクソン

ユリシーズ・グラント

ウィリアム・マッキンリー

グローバー・クリーブランド

ジェームズ・マディソン

ウッドロウ・ウィルソン

米国硬貨の顔

トーマス・ジェファソン

エイブラハム・リンカーン

フランクリン・D・ルーズベルト

ジョージ・ワシントン

ジョン・F・ケネディ

ドワイト・アイゼンハワー

1848年11月7日、

初めて米国全州

で同じ日に

大統領選挙が

行われ、

ザカリー・テイラー

が選出された。

ジェームズ・ブキャナンは、結婚しなかった唯一の大統領。

5人の大統領が、最初の妻との死別後に再婚している。ロナルド・レーガンは、離婚歴のある唯一の大統領。6人の大統領には子どもがいなかった。最も子沢山な大統領は、第10代のジョン・タイラーで、15人の子どもがいた。

フランクリン・D・ルーズベルトは、テレビに登場した初の大統領。

1939年のニューヨーク万国博覧会の開会式でのこと。ハリー・S・トルーマンはテレビ演説を行った初の大統領。1947年10月5日、ホワイトハウスから演説を行った。

最年長で選出された大統領は、**ロナルド・レーガン**(69歳)。

知っていますか? 大統領トリビア

バラク・オバマは、米国大統領に選ばれた初の**アフリカ系アメリカ人**。オバマは、ハワイ生まれで、米国本土生まれではない初の大統領でもある。

出典：CNN

最年少で選出された大統領は、**ジョン・F・ケネディ**(43歳)。

しかし最年少で大統領になったのはセオドア・ルーズベルトで、ウィリアム・マッキンリー大統領の暗殺後、42歳で大統領に就任した。

上院議員から直接、大統領に選出されたのは、**バラク・オバマ**が**3人目**。前の2人は、ウォレン・G・ハーディング(1920年)とジョン・F・ケネディ(1960年)。

ジョージ・ワシントン

アンドリュー・ジャクソン

マーティン・バン・ビューレン

ザカリー・テイラー

ミラード・フィルモア

エイブラハム・リンカーン

アンドリュー・ジョンソン

グローバー・クリーブランド

ハリー・トルーマン

大学へ

行っていない

米国大統領は**9**人